

人口減少社会対策特別委員会審査概要報告書

委員長 福井 直樹

- I 開催年月日 令和 7 年 5 月 21 日（水）
II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 10 時 51 分
III 出席委員等〔出席委員〕◎福井 直樹 ○酒井 善広 山上 尊士
熊木 義城 梅島 清香 埜田 悦子
坂林 永喜 金森 一郎 曾田 康司
水口 清志
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔議長〕 藪中 一夫
〔副議長〕 高岡 宏和
〔説明員〕 別紙名簿のとおり
〔委員外議員〕 なし
〔事務局職員〕 松本 武司 島田 輝 二口 崇
〔傍聴者〕 なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔未来政策部〕

- 地域を担う人材の育成・確保に向けた取組について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【地域を担う人材の育成・確保に向けた取組について】

- 先日、青春（アオハル）インターン事業に参加された高校を訪問する機会があったが、高校としては本事業をおおむね好意的に捉えている印象だった。本事業に参加された高校、生徒それぞれの反応はどうだったのか。
- △ 本事業がおおむね好評とのことで嬉しく思う。青春（アオハル）インターン事業

については、高校のカリキュラムの中で実施することとしている。このため、地域貢献やイベントへの参加といったカリキュラムの中で取り組むにふさわしい内容を取り扱っている。

- △ 事業終了後に実施したアンケートによると、高校からは、企業が積極的に協力していただいたことに満足しているとの意見があった一方、限られた日数の中で調整が難しい部分もあったという意見もあった。令和7年度については、こうした意見を踏まえ、市としてどのような支援ができるか検討していきたい。生徒からは、企業のことを知る良いきっかけになった、これまでインターネット等で調べていたことを直接聞くことができた、といったように好評をいただいている。企業の活動を身近に感じられる機会となったのではないかと考えている。
- 企業と生徒がつながる機会を作っていくことが重要であることを改めて認識した。ブラッシュアップもしていくということだが、7年度も含めて今後どのような目標を掲げて事業を実施していくのか。
- △ 具体的な数値目標はないが、市内企業の活動等について知っていただく機会をさらに広げていくため、1校でも多くの高校に参加いただけるよう PR に努めていきたい。
- 青春（アオハル）インターン事業について、重要かつ魅力的な取組をしていると感じる。本事業への参加をきっかけに、地元に戻って就職した方を把握することはできるのか。
- △ キワプロ事業(企業の課題発見力×若者の発想力をつなぐ課題解決プロジェクト)については、事業に関わっていただいた方と何らかの形で連絡が取れるように連絡先等の交換を通じ、つながりが継続できるようにしている。青春（アオハル）インターン事業については、高校のカリキュラムの中で行っているということもあり、生徒の情報の取り扱いに関しては課題があると思う。事業を継続していく中で、個々の生徒とのつながりについて検討していきたい。
- 非常に良い取組であるため、具体的な成果として把握できればよいと思って質問した。事業の継続・拡大に努めていただきたい。(要望)
- 女性の定着ということが重要な要素の一つではないかと思うが、参加者について男女比はどうか。また、ものづくり分野は男性が多い業界という認識だが、女性の就労が多い事業者と協力するなど、工夫することはできるのか。
- △ 市としては、高岡の産業の根幹を成すものづくりの分野でも女性にとって魅力ある業種や仕事があることを広く PR していきたい。ものづくり業界に就職された女性の生き生きとした姿を SNS で発信する事業も別途展開している。
- △ 青春（アオハル）インターン事業の参加者の男女比については、学校内のカリキュラムのことであり具体的には把握していない。キワプロ事業については、おおむね男女同数だった。
- 青春（アオハル）インターン事業について、企業と生徒が企画立案をし、御旅屋人マーケットで出店するという取組があるが、その中でどのような声があったのか。
- △ クレープいちが実施した事業を例にとると、オリジナルクレープを作るということで、生徒はどのようにクレープを作って販売しているかを勉強し、その後、企業

と生徒で 10 回程度意見交換をしたと伺っている。その中で商品のコンセプトなどについてやりとりをし、製造場所の見学もされたとのことである。御旅屋人マーケットでは、販売にも関わったとのこと、顧客と接することで企業の活動を知るとともに、アイデアを形にしていく工程も楽しかったという意見があった。企業も生徒のフレッシュなアイデアに触れられる良い機会になったのではないかと思います。

○ 本事業とは異なるが、先般、高岡高校と市内企業が商品を共同開発したという報道もあった。企業としては、生徒の新しいアイデアを取り入れることができ、生徒としては仕事の面白味を感じることができる。ぜひ今後も事業を継続していただきたい。(要望)

○ 先だって開催された御旅屋人マーケットでは、御旅屋セリオの中にも多くの客が来られており、お店の方も大変喜んでいました。青春（アオハル）インターン事業が御旅屋人マーケットに、御旅屋人マーケットがまちなかの賑わいへと、事業の好循環が生まれている。その結果、中心市街地の社会増につながったのではないかと考えるが、この好循環について各部局の所見は。

△ 人口減少社会に対応していくためには、まち・ひと・しごとの視点で様々な施策を連携して進めていくことが大事だと考えている。未来政策部としては、人材育成や人材確保といったことで、高校生や大学生などこれから就職を意識していく世代への投げかけや提案をし、市内企業の仕事に興味を持ってもらえるよう事業を展開している。事業に参加して得られた実体験、成功体験をきっかけとして、高校卒業や大学卒業の局面で高岡に住み続けていただく、あるいは高岡に戻ってきていただけるような循環を作っていきたい。

△ 社会増により、まちの新陳代謝が図られ、消費が拡大していくことが見込まれることから、産業振興部としてはこの流れを後押ししていきたい。まちなかの創業支援に取り組み、未来政策部の取組と連携してまちの活性化を図っていきたい。

△ 中心市街地において 2 年連続で社会増となったことは、本市のまちなかが評価されてきた結果であると思う。地価の下落がプラスに働き、投資を生みやすい環境になったということも要因の一つではないかと思う。生活環境文化部としては、現在、脱炭素関係の施策を進めている。本市の計画では、太陽光発電設備の導入や使用済太陽光発電設備の再資源化を通じ、地域のサーキュラーエコノミーを生み出し、環境経済をベースにした地域産業の新たな高付加価値化への取組とともに、まちなかにおいても新たな魅力をつくることとしている。まちなかで太陽光発電設備を設置するための支援について、国に条件緩和を認めてもらい、現在、PR に努めているところである。また、御旅屋セリオでは、地域の取組、企業の取組が一堂に会した脱炭素啓発拠点施設を整備することとしており、そのための準備も進めているところである。御旅屋人マーケットで生まれた人の流れが、生活環境文化部も含めた複合的な取組により、さらに活性化していくよう、引き続き事業を進めていきたい。

△ 御旅屋人マーケットについては、当初、産業施策の中での循環をイメージして始めた。TASU で相談を受け、御旅屋人マーケットでチャレンジし、実際の開業につなげるという流れであるが、今ほど委員や各部局長からも発言があったとおり、部局を超えての循環につながっている。御旅屋人マーケットは、若者が社会と企業の間

に立つ場を作る形にもなっており、産業施策にとどまらず、人づくりという観点からも今後取り組んでいく必要があると感じている。人口減少対策を論ずる場合、若者の流出防止という視点で考えがちだが、そうした囲い込みの発想ではなく、進学や就職で市外、県外に出ていったとしても、いずれ戻ってくるという意識を持ってもらえるようなベースを作っていくことが重要であり、アオハルやキワプロはそうしたことを意識した事業である。囲い込みのような即効性はないかもしれないが、結果として、人口流出防止やUターン、Iターンを増やすことにつながると思う。道を閉ざすのではなく、道は広がっているべきであり、戻ってきたくなくなるような高岡を今後もつくっていききたい。

- まさしく本特別委員会の趣旨に合致するコメントだったと思う。好循環が結果として現れていると思うので、各部局におかれては、この循環を意識して取り組んでいただき、さらに良い結果を出していただきたい。(要望)

〔産業振興部〕

- (1) 市内中小企業における人材の育成・確保に対する支援について
- (2) 起業・創業及び事業承継の促進に向けた支援について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【市内中小企業における人材の育成・確保に対する支援について】

- 高岡イノベーション推進事業補助金（人材育成事業分）について、令和6年度実績が2件とのことで少ないと感じた。どれくらいの申請があると見込んでいたのか。
- △ 高岡イノベーション推進事業補助金は、複数のメニューがあるが、予算は全体で持っている。今回お示ししているのは、人材育成事業ということで5年度から新たに取り組んだものである。
- △ 6年度は、3件から4件の申請を見込んでいた。実績が少ないのご指摘について、本事業はデジタル化の推進や後継者の育成などに関する支援だが、現在、企業では省人化に向けて設備投資を行うというのが大きな流れとなっている。そのような中であっても、今後の持続的な事業の展開に向けて各企業のもとで研修を実施されたのが実績として2件あがっている。市としては、人材育成は注力すべきものであると認識しており、事業の打ち出しの際には目の届きやすい形にするなど、工夫していきたい。
- 見込みに対しておおむね実績が出ていることは理解した。7年度は、新たに女性人材育成に向けた研修も支援の対象となるとのことであり、引き続き中小企業に対する支援に努めていただきたい。(要望)
- インターンシップ推進事業における女性社員との交流会について、6年度に引き続き7年度も実施するとのことだが、具体的な取組の内容は。また、参加者はどのようなものを成果として持ち帰ることができたのか。
- △ 実施した企業は製造業中心であり、人事や経理、デザイン、営業など幅広い社員に集まっていた。参加された女性の方からは、交流会の参加をきっかけに、

今後の自分のキャリアをどのように積んでいくか、自分の指針を持つことができたとの声があった。

- 女性の市外流出が顕著という課題を受けての事業だと思うので、市内や県内に帰ってきたい、働きたいと思ってもらえるよう環境を整えていただきたい。(要望)

【起業・創業及び事業承継の促進に向けた支援について】

- 創業、事業承継について、いずれも多く相談がきているが、どのような内容の相談があるのか。また、まちなかスタートアップ支援事業について、高校生を対象とした出前講座を実施することだが、講座の内容について詳細は。
- △ 出前講座については、現在、高校に働きかけをしているところであり、7月に市内のある県立高校の1年生を対象に実施したいと考えている。まちなかスタートアップ支援事業において、TASUでの相談件数は426件となっているが、その約6割が起業・創業に関する問い合わせである。
- △ 令和6年度の創業件数195件については、飲食業が最も多く、次いで小売業、理容関係である。相談内容は、起業・創業、独立開業に関するものが多かった。コロナ禍明けの5年度は建設業の相談も多く、自分で会社を立ち上げて仕事をしたいといった相談が多くあった。事業承継の相談については、建設業が多く、自分で新たに仕事をはじめたいという流れから、事業承継を受ける形になったものが多い。
- 創業、事業承継いずれも相談件数が伸びてきており、良い傾向だと認識している。何かをしようと思ったときに相談できる体制があるということが最も重要であると思う。創業については、753件の相談に対し、195件の実績ということで、相談の裾野を広げていく中で着実に活性化につながっていくものと感じている。先ほどの未来政策部の取組に加え、出前講座も新しい流れの一つになっていくことを期待しており、尽力いただきたい。(要望)
- 事業承継については、二代目や三代目となる後継者が見つかったのか、それともM&Aによるものか。
- △ 事業承継の実績は建設業が多く、親族承継が大半を占めている。稀なケースではあるが、従業員が承継するケースや、第三者承継ということで、別の企業がM&Aで事業を引き受けるというケースもあった。第三者承継についても今後増やしていく必要があると思うので、関係機関とスクラムを組んで実施していきたい。

2 その他

- ・ 次回の本委員会の開催について

令和7年8月7日(木) 午前10時に開催することが報告された。

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

人口減少社会対策特別委員会 当局説明員名簿（10名）

副市長	河 村 幹 治		
未来政策部長	鶴 谷 俊 幸	生活環境文化部長	長 久 洋 樹
未来政策部政策監	日 名 田 尚 明	生活環境文化部次長 環境政策課長	大 野 洋 靖
未来政策部次長 企画課長	寺 井 知 恵		
産業振興部長	山 本 真 弘		
産業振興部次長	表 野 勝 之		
産業企画課長	今 方 順 哉		
商業雇用課長	澤 田 剛 章		